

**長岡市・寺泊町合併協議会
第3回新市建設計画策定小委員会**

議 事 録

第3回新市建設計画策定小委員会会議録

1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成17年1月28日(金) 午後4時
- ・場 所 長岡市役所第3委員会室

2 会議出席委員の氏名

豊口 協 鯉江 康正 二澤 和夫 大地 正幸
島田 紀男 田村勝三郎

以上 6名

(欠席委員の氏名)

阿部 誠一

以上 1名

3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

長岡市・寺泊町合併協議会新市建設計画策定小委員会

事務局（北谷）

皆様、本日はお忙しいところお集まりくださいまして、まことにありがとうございます。ただいまより長岡市・寺泊町合併協議会第3回新市建設計画策定小委員会を開催させていただきます。

なお、本日は阿部委員が欠席されておりますが、規程により会議が成立していることをご報告いたします。

また、ご発言の際にはお近くのマイクをお使いくださるようお願いいたします。

それでは、事前に配付させていただきました資料について確認をお願いしたいと思います。なお、資料1につきましては、恐縮ですが、本日配付しました資料をお使いいただくようお願いいたします。配付資料は3種類、資料1、2、3でございます。

この後の議事進行につきましては、豊口委員長よりお願いいたします。

委員長（豊口 協）

それでは、議事を進行させていただきたいと思います。

今日の小委員会では、次第にも書いてございますけれども、前回ご意見をいただきましたものを整理いたしました。その地域別整備活動方針と、もう一つは建設計画の素案について審議をしていただきます。恐らく委員の方々からのご意見は今日が最後になるだろうと思いますので、よろしく願いをしたいと思います。

では、最初に地域別整備活動方針につきまして、皆さんからいただきましたご意見をもとに若干の修正がございますので、ご審議をいただきたいと思います。

事務局から説明をお願いいたします。

事務局（竹見）

それでは、事務局からご説明をいたします。事務局の竹見と申します。失礼ながら座って説明いたします。

お手元の資料1をごらんください。寺泊地域の活動方針・展開ということで、前回いただきましたご意見をもとにまとめました。それから、最終的には将来構想の地域の夢というところに4ページ構成で入ることになりますので、そういう形でまとめてまいりました。

表紙をおめくりいただきますと、地域の夢、寺泊地域ということで、こちら今回初めて追加させていただいております。寺泊地域はこんなところということで、寺泊地域の成り立ち、それから自然と民俗芸能の宝庫というふうな形で紹介をしております。

続きまして、2ページ目でございます。今回は資源の強み・内容ということで、水色の部分でございますけれども、今まで項目だけで資源の強みというものをまとめてまいりましたけれども、今回はその説

明文を加えて整理をしてみました。それから、前回いただきましたご意見をもとに整理をしております。

2番の元気に満ちた米産地ですけれども、活用したい地域資源のところでございます。そちらの資源の強みの一番下になりますけれども、風土が生み出す豊富な食材というところで、上から二つ目の黒印ですけれども、環境に配慮した農作物生産への取り組み、減農薬、減化学肥料栽培への取り組みが進められているという形で、資源の強みを追記いたしました。それから、施設園芸の推進の中では、メロンやイチゴ、そういった寺泊ならではの雪が少ない、そういった風土を活用した生産活動が進められているというものをこういう形で整理をいたしております。

3ページをごらんください。こちらの方もそれぞれ資源の強み・内容のところのに説明文を加えて、よりわかりやすく整理をいたしました。

最後、4ページですけれども、こちらはもっと詳しく地域の力ということで、これも今回地域の力を紹介する場面として整理をしております。人と自然と歴史が融合する町、あるいは魚の市場通り、それから、右の方にありますけれども、水族館や世代を超えた地域づくりへの取り組みなど、こういった写真を入れながら寺泊地域を紹介しております。

説明は以上です。

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございました。

ただいまの地域別整備活動方針の内容につきまして、何かご質問、ご意見をいただきたいと思いますが。

はい、お願いいたします。

委員（鯉江康正）

4ページ目の太字で書いてある部分の下から2行目の「こころ豊」という、これ「か」があった方がいいんじゃないですか。

委員長（豊口 協）

だと思います。ありがとうございました。

ほかにご覧いませんか。内容的にはいかがでしょう。よろしいですか。ありがとうございました。

事務局（北谷）

わたしから言うのもおかしいのですが、寺泊の地図が間違っておりますので修正させていただきます。

委員長（豊口 協）

じゃ、修正お願いいたします。

それでは、今日ご審議いただきました内容、1月31日の協議会に報告することにいたしますので、よろしゅうございますか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、次に移らせていただきます。

続いての3番目の新市建設計画素案についてですが、既に寺泊町の地域別整備活動方針に基づき、長岡市と寺泊町との合併において必要な施策が整理され、素案としてまとまっております。特に第4章以降の新市建設の施策として新潟県事業も含めて追記されたものがございますので、その提案が事務局から今日なされますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、内容について事務局からお願いいたします。

事務局（竹見）

それでは、事務局からご説明いたします。

お手元の資料2をごらんください。長岡市・寺泊町新市建設計画（案）でございます。表紙をおめくりください。まず、1ページをごらんいただきまして、網かけの部分です。これも今回網かけの部分が追記という形で、もしくは前の長岡地域でつくった建設計画の部分を修正しているということで、そういう形で表現をしております。下の方に書いてありますように、なおこの建設計画は、と始まりまして、長岡市、中之島町等の6市町村で既に作成されている建設計画をベースに寺泊町の「地域の夢」や、寺泊町の資源・強みを活用して「新市地域らしさ価値」を高めていくための活動（根幹事業など）を加えたものです。こういう形で始まっております。

左、目次が序章から10章までございます。この構成は、長岡地域の構成のそのままです。今回訂正した箇所といたしましては、第1章 新市の概況からみた可能性、こちらも今まで皆様方からご議論をいただいたものです。それから、第2章の3番、地域の夢、寺泊地域のものを追記しています。それから、第4章から第7章までは今までご議論していただいたものや、それから寺泊町の皆さんからご提案していただいたもの、あるいは事務局、コンサルタントの中で整理したものを今回提案するものでございます。

少しページを飛びまして、7ページをごらんください。7ページからは第1章 新市の概況からみた可能性ということで、網かけの部分を今回修正したものでございます。

それから、15ページごらんいただきたいと思ひます。15ページにつきましては、前回ご意見いただきまして、各地域の産業の成長というところで、平成14年の工業統計だったのですが、これは比較が平成8年と14年の比較でしたので、こちらのグラフの下の資料のところを訂正しております。

続きまして、ご意見いただいた部分で20ページでございます。当初34分という形で、寺泊町から中之島インターまでの時間を提出しておいたんですけども、なかなかふだんの感覚といいですか、そういったものと合わないということの中で、実際に寺泊町役場の職員の方から測っていただきました。実際測りましたら30分ぐらいということですので、地域振興計画にはもともと載っていなかったものですから、30分というものをこちらに載せておきたいと思ひます。それから、同じく20ページのところで、県外観

光入り込み客の推移の中で、新市を合計しますと今現在の新潟市を上回るということの中で、左の文章も新潟市には及びませんが、県外観光客数では新潟市を上回っているという形で訂正をしております。

第1章は訂正の分は以上でございます。

それから、第2章でございます。第2章につきましては、新市将来構想の概要ということで、新市の将来像として基本方針、四つの地域らしさ価値を掲げています。その四つの地域らしさ価値を高めるために寺泊町さんの方のいろんな地域資源を使った形で高めていく、実現すべき寺泊の姿を34ページに追記をしております。34ページ、上から、まず一つが海と歴史・文化に育まれた技や知恵、産業（営み）の中に新たなビジネスチャンスを創造するまちづくり。それから、二つ目です。「満ち足りた生活原体験」を未来に引き継ぐ集落文化保存地域への挑戦。それから、三つ目です。地域の歴史を希望と力に換えてゆとりとやさしさの寺泊人が推進する世代協働のまちづくり。そして、四つ目です。日本海、佐渡ヶ島...、そして世界へ、新ながおかの新たな夢を拓げる現代の北前船交流拠点の構築という形で追記をしております。

それから、35ページ、36ページは、それに基づきまして寺泊地域を加えております。

第3章、37ページは長岡地域と同様のものです。

続きまして、45ページ、第4章からでございますけれども、こちらから第7章まで寺泊地域の資源や強みを活用して新市地域らしさ価値を高めていく活動を追記しております。

46ページをごらんください。こちらは、地域らしさ価値の「元気に満ちた米産地」に向けた戦略的事業です。網かけしてある一番下にございますように、魅力ある海・川・山創出事業。それから、47ページです。「世代がつながる安住都市」に向けた戦略的事業として、真ん中ほどに地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出ということで、海を活用した未来人体験・交流促進事業を追記しております。それから、48ページをごらんください。こちらは、「世界をつなぐ和らぎ交流都市」に向けた戦略的事業ということで、すべての市民が「新ながおか親善大使」のところにありますように、現代の北前船交流再生・強化事業、こちらを追記しております。

今こちらにある戦略的事業、それから第4章以降の事業なんですけども、基本的にはこちらに掲げてある事業は、新市として取り組んでいくものであります。特に今回追記したものは、寺泊地域の資源を活用した中で行っていく事業ということでご理解いただきたいと思います。

続きまして、49ページからはリーディングプロジェクトです。まず、54ページをごらんください。54ページ、蛸が舞い、人の豊かな営みが展開する「食」「農」のユートピアを生み出す、そういったところでリーディングプロジェクトを追記してございます。一番下にございますように、魅力ある海・川・山創出事業ということで、寺泊地域には美しい夕日、汐の香り、それから延々と続く砂浜など、日本海を満喫できる自然環境等多数存在するということでございます。そして、ワーキングでも出ましたけれども、海岸に流れ着くごみは地元住民の方が流したごみだけではなくて、河川上流の住民も深く関係していると、そういったことを考えまして、環境教育、それからボランティア活動による環境保全創出の

システムをつくるとして、寺泊地域の海岸線で先行的に取り組むという形で提示しております。

続きまして、56ページごらんください。56ページは、「元気に老いる」熟年力を活かしたまちづくりの推進ということの中で、リーディングプロジェクトで一番上にありますように、健康づくり強化推進事業ということ、寺泊地域の世代がつながる安住都市のところの強みにもありますように、非常に地域の住民の皆さんが結束されているということでございます。それから、活動方針の中にも世代協働のまちづくりということの中で、地域の健康づくりもそういった力を利用して事業を推進していきたいということで、寺泊地域でそういった福祉活動の拠点となるものも先行的に取り組むということでまとめています。

次、56ページの地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出ということで、戦略方針としては小・中学生の才能を地域で伸ばす仕組みづくりと活動を強化するというところで、青少年体験型学習推進事業がございます。未来人を育てる資源として、寺泊の水族博物館があるということで、県内の上越あるいは新潟との水族館とは差別化して、その地域活動を核として海洋型の学習カリキュラムを開発して各年代に対応した学習拠点整備を展開するというところでまとめています。

続きまして、57ページです。同じく地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出ということで、戦略方針は伝統文化を継承・発信し、未来人を育てる文教都市づくりを推進するというところでは、海という未来人を育てる、そういった資源があります。海を活用した未来人体験・交流促進事業ということで、矢印に書いてありますように海にかかわる達人、例えば漁業の達人あるいは釣りの達人、あるいはボードセーリングなど、そういった方の達人を発掘して体験プログラムを構築すると、そしてそういったものを開発しながら広域的な子供交流に向けた拠点整備を展開していくと、寺泊地域で先行的に取り組むという形で整理しております。

続きまして、58ページです。こちらの重点実現項目は、「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵プログラム」の開発・推進です。戦略方針が安全・安心な子育てを追求する環境づくりを行うというところでは、子育て支援機能強化事業ということで、寺泊地域の結束力を活用して世代協働の子育て交流支援拠点を整備するというところで整理をしております。

続きまして、60ページでございます。こちらの重点実現項目が、すべての市民が「新ながおか親善大使」ということで、戦略方針が住民の地域に対する愛着・意識形成と、それに基づく市民レベルの交流の活性化を促進するというところで、リーディングプロジェクトといたしまして、現代の北前船交流再生・強化事業という形で整理をしてあります。寺泊地域の北前船交流で培われたいろんな文化、それから歴史的な資源、海の恵みがございます。そういったものを含めて、市民の地域に対する愛着を含めて一体感を醸成した中で、こういった交流拠点を強化していくということです。

まず、矢印の一つが、市民による海の資源発掘、保存・活用システムを構築していくです。それから、こちら小委員会の中でご意見をいただきました佐渡との歴史的なつながりをさらに発展させるために、交流ネットワークの強化を図ると、それから海と新市の魅力を結集した交流・情報発信拠点整備への展

開を図るというものです。寺泊地域で先行的に取り組んでいくものでございます。

以上、リーディングプロジェクトにつきましては、こういった形で整理をしております。

それから、第5章につきましては、生活基盤整備事業ということで、こちらの事業実施に当たっては必要性や緊急性を個別に判断した上で、順次事業に着手することになります。居住環境で言えば公共下水道の整備とか、あるいは65ページにいきますと道路整備、生活関連道の整備、それから67ページへいきますと体育施設の関連の整備なども順次行っていくということです。

それから、68ページ以降は、第6章で合併に伴い必要となる事業ということです。合併に伴って必要となるものですので、例えば消防施設の関連、それから災害情報伝達システム、それから69ページにいきまして、市町村間の道路ネットワークの整備、そして今回追記しております支所機能の充実ということで、地域間の連携強化を図るための支所機能の充実を図るという形で追記をしております。

それから、70ページをごらんください。こちら第7章 新市建設の根幹となる新潟県事業でございます。まず、道路整備です。道路整備につきましては、一般国道402号交差点改良ということで、野積橋から野積の方に向かうところの三差路の改良でございます。それから、一般県道長岡寺泊線です。こちら長岡と寺泊のネットワークの強化につながるものでございます。それから、歩道整備では一般県道長岡寺泊線（竹森）地区ということです。それから、71ページに移りまして、河川・砂防整備、河川改修では、郷本川広域基幹河川改修事業ということで、こちら和島村さんでも挙げておりました。

続きまして、今回初めて出る項目でございますけれども、海岸・港湾整備ということでございます。こちらの海岸・港湾整備に当たりましては、離岸堤の整備、あるいは港湾環境の整備を行い、人々の暮らしの安全を確保するとともに、広域交流拠点としての機能を高めることで、新市の地域らしさ価値「世代がつながる安住都市」、それから「世界をつなぐ和らぎ交流都市」を高めていくものでございます。事業といたしましては、海岸局部改良事業（山田海岸）、それから寺泊港港湾改修事業、この二つを挙げております。

続きまして、72ページをごらんください。こちらは、農林業基盤の整備ということで、かんがい排水では岩方地区、それからほ場整備では潟地区ということで整理をしております。

あと第8章は、公共施設の適正配置、そして第9章は財政計画、第10章につきましては、新市建設計画の推進に向けてということで整理をかけておりますけど、今までどおりでございます。財政計画につきましては、詳しい内容を説明いたします。

事務局（大滝）

第9章 財政計画について説明いたします。75ページをお開きください。この財政計画は、既に決定をされております長岡地域合併協議会の財政計画に寺泊町の財政見通しを加え、合併に伴う削減経費や住民サービス向上のための経費、合併特例債事業、国、県の財政支援措置などを考慮いたしまして、新市の10年間の財政規模を算出したものでございます。財政計画の性格といたしましては、建設計画が事業の実施計画ではございませんので、財政計画は毎年度の実施予算を示すものではなくて、10年間のお

おむねの財政規模や傾向を示すものでございます。算出の仕方につきましては、長岡地域合併協議会のときと同様でございますので、75ページから76ページにかけて記載をしております、1、基本的考え方、2、前提条件につきましては、長岡地域合併協議会のときと同じでございます。その結果、新市の財政計画につきましては、76ページに掲げております数値のとおりとなりました。総額で9,097億円であります。これを10で割りますと、単年度では910億円程度ということになります。

本日配付しております資料3、右上に資料3と書いてある資料をごらんください。ここに合併に伴う10年間の財政影響額や計画作成に当たり、留意した点を掲げました。まず、主な削減経費といたしまして、人件費で174億円を、それから物件費は合併に伴うスケールメリットといたしまして、34億円を見込むものでございます。

次に、事務事業の制度調整により住民サービスを向上するための経費といたしましては34億円を見込んでおります。建設事業につきましては、地方交付税等一般財源の減少が見込まれることから、将来の財政負担を考慮し、単年度で過去3カ年の平均事業費を上回らないように見込んでおります。また、合併特例債については、その上限額の90%の423億円を使うこととして見込んでおります。さらに、有利な起債であります合併特例債を通常の建設事業の起債にできるだけ振りかえて活用するということとしております。

次に、旧市町村単位の地域振興や住民の一体感の醸成のために、その運用益を活用できる基金が造成できますが、それについては40億円を見込んでおります。

最後に、合併後の臨時的な経費に対して、交付税や国県補助金の支援、措置がございますので、それは93億円を見込んでおるものでございます。

以上で財政計画の説明を終わります。

事務局（竹見）

説明の方は以上でございます。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

問題といたしますか、審議していただく内容は、ちょっと二つに分けて考えたいと思いますけども、第1章から第3章までの範囲、これは一部修正、その他でございます、この範囲で特に何かご質問ないしはご意見ありましたら、お伺いしたいと思います。

これはよろしいですね。

はい。ありがとうございました。

今回第4章以降にいろいろと第2回の小委員会でいただきましたご意見等を含めて追加、追記ないしは修正ということが行われておりますので、その辺をちょっと詳しくチェックをしていただきたいと思います。

特に第4章入りますと、46ページには魅力ある海・川・山創出事業という項目が追記されております。

さらに、47ページには海を活用した未来人体験・交流促進事業というものがそこに追記されております。

さらに、48ページ、現代の北前船交流再生・強化事業、具体的に出ておりまして、一つの新しい夢がここに浮かんできております。

それから、リーディングプロジェクトの項目ですが、ここでは54ページの下のところですね。魅力ある海・川・山創出事業の内容がここに記載されております。

次のページ、56ページ、中之島、小国、寺泊という、寺泊がそこに追加されておりまして、一番下の項目のところには地域活動を核とした海洋型の学習カリキュラムを開発し、各年代に対応した学習拠点整備を展開する。寺泊水族博物館で先行的に取り組むということが記載されております。

57ページ、海を活用した未来人体験・交流促進事業、さらには58ページに地域の結束力を活用した世代協働の子育て交流事業の拠点として整備をしたいということです。

さらには、60ページに現代の北前船交流再生・強化事業として具体的なことが記載されております。

以上が第4章の追記ないしは新しい項目でありますけれども、何かこの辺でご意見、ご質問がありましたら、お願いしたいと思います。

委員（大地正幸）

漁業はどんもんでしょうか。

委員（島田紀男）

年間の漁獲高が、正式には調べた数値じゃないんですけども、例年ですと約4億という漁獲高というふうに覚えております。

委員（大地正幸）

その辺は、新市の計画の中で配慮しなくてもいいんですか。特に漁業という、長岡は海の漁業というのは初めてになるもんですからね。

委員（鯉江康正）

これは直せないのかもしれませんが、46ページの重点実現項目の一番最後なんですけど、「食」「農」のユートピアを生み出すと書いてあって、私も大地委員と同じようにここに「漁」というのは入れなくていいのかなという気はちょっとしたんですけども、ここは直せないんですかね。

委員長（豊口 協）

いかがでしょう。46ページの左側のフレームの中ですけど、蛸が舞い、人の豊かな営みが展開する「食」「農」のユートピアを生み出す。

事務局（竹見）

長岡地域の既に提出してある建設計画との関連がございますので、県の方と確認させていただいて、もし直せるのであれば直せますし、確認させていただきたいと思うんですけども。

委員長（豊口 協）

はい。わかりました。ひとつ確認をしていただいて、直せる場合には、ここに「漁」を入れるということですね。ありがとうございました。

委員（鯉江康正）

これ以前のお話の中で、海洋深層水という話がありましたよね。それは全然触れられてないようなんですが、それはいいんですかねというか、どうなんですかねということなんです。議論の過程の中で、そういう話題が出なかったということですか。

事務局（竹見）

もしそういった具体的な事業を取り組むとしたら、60ページの北前船交流再生・強化事業がありますけども、そこに海の資源発掘とか、そういった中に海洋深層水も資源発掘していくんだということで、具体的にその事業としては取り組んでいくことも当然考えられると思います。今ここでそういった海洋深層水などとか、そういった文言をここに入れるかどうかですよね。

委員（鯉江康正）

その前に戦略方針のところでも市民レベルの交流の活性化と書いてあるんだから。

入れないで良ければ、入れなくても良いのですが。

委員長（豊口 協）

いかがでしょうか。

島田委員、田村委員、その辺のご意見は。

委員（島田紀男）

今ほどの海洋深層水の項目ですけども、これについては官サイドでやる事業ではないということは、当初の会のときに申し上げておられたところがございますので、民間事業としてやる場合の行政サイドからの支援策は出てくるかもわかりませんが、ここに載らせる必要はあるのかどうかということについては、皆さんのご意見をお聞きいただきたいと思っております。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。というご意見ですが、いかがでしょうか。

今後具体的に事業を起こす場合に、官として指導はしていくんだというご意見でございますけども、そういうことが含まれていれば、特に記載する必要はないのかなという気もいたします。

委員（大地正幸）

漁業の事業についてもいろんな意味で全部していかねばいけないと思うんですよね。例えば、基本的に農にはあるわけですね、農に対しての公的な支援は当然あるわけですね。至れり尽くせりであるわけですね。同じようなことで、漁業に対してもそれなら相応に当然あるべきだろうという、水産加工とか。そういうところの漁業という部分の位置づけをきちんとしておかないと出る幕がないみたいな、話になっても困るだろうと思うんですよね。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。県の方と、これ調整させていただきまして、できるだけ記載するように前向きに取り計らいたいと思います。

事務局（竹見）

それから、委員長、ちょっとよろしいですか。

先ほどの海洋深層水でございますけども、51ページのところにビジネスとしてとらえられるのであれば、地域資源活用型のビジネスとかですね、それから産業連携強化事業、その辺でそういった海洋深層水を利用した何か技術を投資するとか、何か製品を創出するとか、そういった産学連携とか、そういったものになじんでくるのかなと思いますけれども。

委員長（豊口 協）

記載するとすれば、51ページの産学のところか市民起業の方ですか。一番下。

事務局（竹見）

本来こういった動きがあるかどうかですけども、逆に可能性として産学が連携できるものかどうかですよね。その辺そういった可能性があればここに入ると思います。

委員長（豊口 協）

産学がやって連携でやるということになりますと、どこの学になるのかな。技大ですかね。可能性はあるだろうと思いますけれども、どうでしょうか。

新市の新しい事業として、これを積極的に支援して具体的な事業として進めるということはこの委員会として期待するのであれば、この辺にはっきりと明記しておいた方がいいだろうという気はいたしますけど。

はい。

委員（田村勝三郎）

現在佐渡沖で取水しておりますものを船で運んで寺泊に持ち込んでおるわけですが、ホテルの方で風呂のお湯として、かなり大きいホテル二つのものが利用されて好評を受けているわけですが、ほかの動きがあるようでございます。ボトル化するための模索をしているように聞いているわけですが、それがどの程度ストックをして、それがまたさらにほかの加工品に利用できるのか、ほかではお酒の仕込みに使ったり、あるいは動物にも使ったり、ペット等にも使えるようなことを考えて、いろんなことがあるようでございますけれども、具体的にはまだ聞いていないんですけども、せっかくの資源でございますので、寺泊にもそういうものが拠点としてできれば、これまた喜ばしいことではないかと思うわけでございますけども、そんなことでございます。

委員長（豊口 協）

どうでしょうか。これ深層水というのは陸地でとれる水が非常に悪くなったので、海底に穴掘って水とろうと、こういうことですから、裏を返すとその辺の水は非常に悪いんだということにもなりかねないんですよね。だから、深層水を積極的に活用するということは、現在水道水として使っている川の水

が極めて悪くなったということにも置きかえられてしまいますので、どうですかね。

委員（大地正幸）

必ずしもそういうことじゃなくて、海水の、しかも大変水深の深いところにある水、海水には大変多くのミネラルが含まれておるとか、陸上では得られないようないろいろなものがそこに入っているというふうなことで、それを利用しようということだと思っただけですね。

それで、もう一つは、いわゆる深層水そのものということも一つなんですけど、これから海水を利用して、そしていろいろな産業を興していく、例えば海水を利用するということへ養殖があるわけですね。例えばアワビを養殖する、エビを養殖する、そういったいわゆる養殖漁業についても、今までの長岡市ですとそれは大変難しい話だった。しかし、寺泊が長岡市になることによって、またそういう可能性というのは開けるんじゃないのかなと。そういうときに、やはりそういうことを見通した上で、そういうときに、じゃどういふふうに対応できるのかということも行政としてこのところで考えておくべきであるし、またその方策も将来の問題としては考えるべきだというふうなことを1項入れておく必要があるんじゃないかなというのが私の考えなんですけどね。

委員長（豊口 協）

それでは、やっぱり新しく新市、海が入ってくるわけでありますから、海の利用につきましてはもう少し積極的に今後の計画の中に記載した方がいいだろうと、今大地委員からのご意見でございます。それちょっと事務局で検討していただいて。

はい。

事務局（高橋）

今回追記をした分がもちろんあるわけですが、既に長岡地域でつくっている部分についても、これも当然寺泊地域に該当はしていくという考え方が基本的な建設計画のつくり方です。それで、今海洋深層水を企業の方がどのような形で営業されているのか私は承知しておりませんが、例えば50ページに中段から下の方に、対企業マーケティング調査事業というのがございます。これ個別にどういう事業をどうしていくかということではなくて、新市に立地している企業、仮にその企業が新ながおか市、寺泊町に立地をしている企業であれば、例えばその企業が新技術の開発や新たなマーケットを開拓できる、そういうように体制を確立する。ですんで、個別にどういうことを具体的にしていくかということではないんですが、例えばこういうことであるとか、例えばその企業は資金繰り等の関係で必要があれば、51ページの中段から下の方に、新たな手法による中小企業融資制度事業であるとか、企業に対する支援としてはかなり幅広く掲載してありますので、ですんで全く今までの考え方の中に海洋深層水に限らずですね、ないということではない、そういうつくり方はしてあるということをご理解いただきたいと思います。

委員（大地正幸）

例えば協同組合というのがあつたわけだ。農業協同組合とは別のもんだね。そういう部分に対して、配

慮してあるのかなという。

事務局（北谷）

わかりました。そこはあえて1行加えさせていただきます。例えば海洋深層水など海水を利用した新規ビジネスの開拓とか、そういうイメージでよろしいですか。

委員（大地正幸）

そうですね。例えば海水は煮ればすぐ塩ができる、天然成分というのはかなり評価している。そういうこともやりたいという人が出る可能性が十分ある。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。それじゃ、ひとつその辺を事務局で検討していただきまして、よろしくお願ひしたいと思います。

はい。

委員（鯉江康正）

53ページでございますが、戦略方針の真ん中ですね、長岡特産農産物の「元気印＝健康とおいしさ」というブランド力の強化活動を行うという、農産物ブランド力強化支援事業の中にやっぱり水産物とかも入れておいた方がいいと思うんですね。

委員長（豊口 協）

確かにそうだと思います。この辺もご検討いただきたいと思います。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

事務局（北谷）

あと委員長、ちょっと補足させていただきますが、例えば54ページ、リーディングプロジェクトで一番下の方、寺泊町の該当部分があるのですが、直接的な表現じゃないのでわかりづらいかもしれませんが、これは今までご意見いただいた海岸線の整備というふうに読んでいただきたいと思いますし、その後の60ページ、佐渡との歴史的なつながりを云々と書いてありますが、これは直接的な表現じゃありませんけども、当然佐渡とタイアップした観光の開発というふうに読んでいただきたいと思います。そういった意味で、今までいただいたご意見は、事務局としてはすべて反映させているつもりですので、よろしくお願ひします。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。その辺ひとつご異議がなければ、こういう形で表記させていただきたいということでございます。

第4章、よろしいでしょうか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

続きまして、64ページ以降、第5章、これは特に大きな変化はございません。

よろしいですね。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

第6章一番最後、第6章の69ページの最後のところに支所機能の充実ということが追記されております。

次の第7章で、新市建設の根幹となる新潟県事業、県の事業ですが、そこに新しく一般国道402号、さらには一般県道長岡寺泊線の項目等が追記されております。それから、河川の方では郷本川の事業が記載されています。それから、新しく、本当に新しく入ってきましたけれども、一番下、最後のところに海岸と港湾整備という項目が追記されております。これ何かまぶしいような感じしますね。

はい。

委員（田村勝三郎）

第6章でもよろしいでしょうか。

68から9ページにございます消防関係でございますけれども、現在広域消防でやっている関係で、広域になってから単独でやるよりも大きな広域化によるメリットがございまして、今かなり住民はありがたいと喜んでいるような、今体制の中でございますけれども、今後ここにうたわれております消防施設の整備、装備の充実、あるいはまた通信施設の整備等ここにございますが、それが私たちの地域にどのような関係になってくるのか、おわかりの範囲でお聞かせいただけないものでしょうか。

委員長（豊口 協）

これ具体的なことまだ実はですね、新市が生まれてからいろいろと具体的な政策が展開されると思えますけれども、説明できる範囲で何かありますか。

はい、お願いします。

事務局（竹見）

消防署につきましては、今海岸通りのところにあって、渋滞とかに巻き込まれてなかなか出にくいということですので、そういったお話も聞いていますので、今後私どもの消防本部の方といろいろ打ち合わせした中で、合併後に大体どこのどういった場所に設けたらいいとか、そういうことを検討していくこととなります。こちらについては、新市として消防施設を整備、充実を図っていくという表記になりますけども。

委員長（豊口 協）

よろしいですか。

ありがとうございました。

はい、お願いいたします。

委員（大地正幸）

これも新ながおか市として初めてのことになるのかなと思いますけども、海岸線の警備というか、そ

ういった現実的に拉致被害なんか起きているわけですね。その辺県事業としてなるんでしょうが、警察というのはこの中に盛り込まれないわけです、だろと思うんですがね。ただそういった海岸の警備、安全保障とかね、そういったものに対しては、今度新たな形としてやっぱり配慮すべきことではないのかなと、例えばそういったものに対して消防が消防団みたいなものを、あえてそういうものにつくるということも一つあるでしょうし、それまでいなくても自主的な活動を行って地域の安全を図るとか、そういったいわゆる安全、安心の面での新たな要素に対しての備え、そういったものはどうなるのかなということが一つあるんですけども、これはどのようなことでよろしいですかね。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

事務局、お願いいたします。

事務局（高橋）

委員、今おっしゃいますとおりに、市としてやるべき部分と、それから県、国という部分があるわけですけども、市としての部分ということであれば、68ページに合併に伴い必要となる事業の中で、68ページのここ自体が防災体制の充実と防犯活動の促進という部分でございますが、例えば下から二つ目のところに地域防犯活動の実施、啓発、推進、合併を機会に新市が一体となった防犯活動、広い意味では防犯ということになるかと思いますが、それらを推進していくという表記の中でご理解をいただければと思っております。

委員（大地正幸）

これかなとは思ったんですけどね、ただやはりこういうのが論議の中に上がったのか上がらなかったのかということ、やはり私はきちっとしておきたいですね。

委員長（豊口 協）

大変重要な問題でございます。どうもありがとうございました。

ほかにございませんか。

じゃ、次の第7章ですね、新潟県根幹事業です。

これはよろしいでしょうか。

はい、お願いします。

委員（島田紀男）

今日阿部委員さん欠席ですけども、これらのすり合わせはお済みいただいたんでしょうか。

委員長（豊口 協）

事務局、お願いします。

事務局（竹見）

基本的な部分では意見いただいています。ただ実際にこれから事前協議になりますので、そこで今後十分に協議していくということになります。基本的には了解は得ております。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、この第7章終わります。

次のページ、よろしいでしょうか。

それでは、第9章の財政計画ですが、これは特にないと思いますが。

第10章、これは長岡地区の計画と内容が全く同じでございます、こういう方針でこれから進めていくと、こういうことになります。

それでは、今いろいろとご意見いただきました。一部修正、追加、記載することもあるかと思えますけれども、基本的に今日ご議論いただいた内容でよろしゅうございますか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それでは、これを修正いたしまして、1月31日の協議会に報告するようにいたしたいと思います。どうもありがとうございました。

これで建設計画書（案）としてまとめることになりました。今後の日程等について事務局からお願いをしたいと思います。

事務局（高橋）

今ほど委員長からお話がありましたように、今お諮りしたものに若干修正を加えさせていただきます、それを31日の日の協議会にお諮りをいたします。その後に県に事前協議として、協議を行います。恐らくその協議の中で県の方から、意見書という形で出てまいりますので、それを整理しまして、恐らく今の予定では3月になろうかと思いますが、意見を整理した形で3月に小委員会をまた開催をさせていただきます、最終的なものとして3月の協議会にお諮りをしたいというふうに考えております。その後、正式に県に対して正式協議を行うと、こういうスケジュールになりますので、よろしくお願いをいたします。

以上です。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

以上をもちまして、本日の小委会、日程すべて終了いたしました。今日は、またさらにいろいろ具体的な非常に基本に触れるようなご意見等もいただきまして、内容の充実を図ることができました。大変ありがとうございました。

以上で第3回の小委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

（午後5時 散会）